

体験発表を通じ「ぎょさい」を再確認

～長崎市で「全国漁協交流集会」開催～

漁済連は7月4日、長崎市で「平成13年度全国漁協交流集会」を開催しました。この集会には全国42漁協の関係者ら約100名が参加、「ぎょさい」加入先進漁協の関係者による体験発表や意見交換などを通じて「ぎょさい」加入の重要性が再確認されました。

集会は長崎県共済組合の藤木哲夫組合長の歓迎挨拶に引き続き、漁済連が『パワーアップぎょさい21』運動の取り組み状況を説明、続いて佐世保市相浦漁協の溝口芙美雄組合長が、漁協と自身が経営する会社での「ぎょさい」取り組みを紹介されました。溝口組合長は、台風被害や不漁などで共済金の支払いを受けた経験を語り、「今後も加入の重要性を組合員に訴えるとともに、一層制度を活用し皆で『ぎょさい』加入を推進しよう」と参加者に呼びかけました。

引き続き開催された「TAC対応漁業推進会議」では、長崎県まき網漁協の吉貝聖生専務が、「まき網漁業のTAC協定下の『ぎょさい』推進の取り組みについて」と題して特別講演を行いました。

吉貝専務は、全まき協会と漁済連が連携しまき網漁船の全船加入運動を積極的に展開してきた事を契機として、県まき漁協も「ぎょさい」に大きな関心を持つ事となったと述べ、「当組合としては今後も『ぎょさい』加入推進を続けたい。『ぎょさい』が資源管理を支える制度に改善されることを期待する」と講演を締めくくりました。

「ぎょさい」加入の実現には、漁協役職員の方々に「ぎょさい」を十二分に理解してもらうことが重要なのは言うまでもなく今回の集会が、参加漁協に対する今後の推進活動の大きな足掛かりとなることが期待されます。